

## 審査の結果の要旨

氏名 阿部 大輔

本論文はスペインのバルセロナ市の旧市街を対象に、スペイン都市計画における歴史的市街地の保全再生の戦略について、再開発過程を中心に現地調査結果をとりまとめ、考察を行ったものである。これまで日本においては、スペインの都市計画制度についてまとまった学術的な研究は行われていないため、本論文が本邦初のスペイン都市計画に関する本格的な研究論文となっている。したがって、パイオニアとして特に高い価値を有する論文となっている。また、バルセロナ旧市街における市街地改造計画に関して、詳細な現地調査をもとにその実態を詳しく明らかにし、その結果に基づいて客観的な評価を下している。こうした現地調査情報に関しても、物的計画のみならず制度推進のための公社組織の分析や各種社会指標の分析を行っている点もこれまでにない特長である。

論文は3部合計12章から成っている。

第1部はスペイン都市計画研究の理論的枠組みについて、研究の前提条件を整理する部分である。第1章では研究の枠組みを明らかにし、続く第2章ではスペインの歴史的市街地に関して都市政策の潮流を概観し、スペイン都市計画に関する諸問題を概説している。

第2部はスペインにおける既成市街地の保全再生論理の制度的な成立過程を論じている。第3章では、19世紀におけるスペイン都市計画の誕生と最初期の実践、ならびに20世紀初頭における歴史的遺産保存概念の生成過程を明らかにしている。第4章では、スペインにおける初の体系的都市計画法制であるといえる1956年の土地法に関して、その内容を概説し、その法的特徴と限界、さらには1976年および1998年の土地法改正の経緯について明らかにしている。第5章では、歴史的市街地における空間整備の主要な手法である市街地改善プランおよび一体的修復区域制度に関して、その導入過程を詳細に論じ、そこにおいていかに歴史的市街地保全再生の論理が成立していったかを明らかにしている。

第3部はバルセロナの旧市街を対象に、実際の保全再生策がいかに立案され、実施に移されたのかを論じ、その効果を検証している。第6章では、バルセロナ旧市街の社会的、経済的および空間的特質を概観している。第7章では、バルセロナ旧市街における社会問題発生過程を論じ、そこにおいていかに物的計画が推進されていったかを、19世紀前半、19世紀後半から1939年にかけて、1939年から1976年にかけて、1976年以降に分けて詳細に跡づけている。第8章では、1976年の大都市圏総合計画を中心に旧市街地の改善特別プランの内容を明らかにし、その形態を中心に分析している。第9章では、1980年代の統

合的実行プランや第 1 次 4 年計画を中心に、再生事業の制度的枠組みを明らかにする作業を行っている。特に旧市街開発公社の活動について、その運営の理論を明らかにする分析を行っている。第 10 章では、バルセロナ旧市街の保全再生策に関して、具体的にどのような地区でいかなる空間整備が実施され、どのような空間が生まれているのかを具体的に明らかにしている。第 11 章では、以上の現地調査をもとにそうした保全再生戦略の評価を明らかにしている。結論に当たる終章では、スペイン諸都市の歴史的市街地における保全再生論理がどのように生成してきたのかを 1976 年土地法に根拠を持つ市街地改善プランをもとに明らかにし、とりわけバルセロナ旧市街における開発公社の役割を正當に評価している。さらにバルセロナにおける保全再生策としての「多孔質化」の論理とその効果を明らかにすると同時に、その限界も示唆している。

以上、本論文はスペインの都市計画に関する日本初の本格的な研究として非常に価値が高く、とりわけスペイン都市の歴史的市街地における保全再生施策に関しては他の追随を許さない貴重な研究成果を挙げている。

よって本論文は博士（工学）の学位申請論文として合格と認められる。